

A Whisper of the Month

PHOTO by MARIKO

むつき

高島典子

形を変え 流れゆく雲に
移ろいゆく 時を重ねる

飛ぶように消えていった時間も
騒がしく過ぎていった日常も
優しく癒してくれた出逢いも

すべてが 過去になる

大切なのは
昨日でもなく 明日でもなく
今この瞬間なのだと

風の声に背を押されながら

新しい時代を
また 刻んでいく

☆プロフィール☆
鹿児島県出身、神戸在住。フリー
アナウンサーとして活躍中。
好きな言葉は「一期一会」。

<プロフィール>

予備校講師歴20年。関西～名古屋の大学受験予備校での指導経験豊富。現在元町にて「さくらみかふえ&ギャラリー」を経営。カフェにて不定期に『大人のための古文講座』を開催中。一方でろうけつ染めの技法による美術作家としても活動。西洋占星術師としての顔も持つ。

おほかたの世騒がしく、心細きやうに聞こえし頃などは、藏人頭にて、ことに心のひまなげなりしうへ、あたりなりし人も「あいなきことなり」など言ふこともありて、さらにまた、ありしよりけに忍びなどして、(世間の情勢が物騒で、平家の命運が頼りないなどと噂された頃などは、資盛様は藏人頭の官職にあつて、特に心の余裕が無さそうであつた上、私の周囲の人も、「資盛様とお会いする」とはよくないことだ」と言うこともあつて、これまで以上にいっそう人目を忍んで逢つていたりなどして)

と云つた状況になつた時、資盛は彼女に、「このような騒乱になつたからには、自分が戦死するのは疑いのないことである」と告げ、

さらば、さすがにつゆばかりのあはれはかけてんや。たとひ何とも思はずとも、かやうに聞こえ慣れても、年月といふばかりになりぬる情けに、道の光も必ず思ひやれ。(そうなつたならば、やはりあなたは私のことを、少しぐらい不憚に思つてくれるだろうか。たとえ何とも思わなくても、あなたとは何年も愛し合つてきた仲なのです、だから私の冥途の闇を照らすように、必ず取りはからつて下さい) 自分の死んだ後、供養してほしいのは、政略結婚した正妻でも他の女性でもなくあなただけなのだ、と。

そして、資盛は「今の今からこの世に生きていく自分ではない、別人になつたと心を決める。なぜならば、名残惜しい

とか、あの人のことが気がかりだとかなどと考え始めたらしきりがないから...でも、やはりともすれば元の思ひきれない自分に戻つてしまひそうであるのが、とても情けない」と彼女に真情を吐露しています。資盛のこの告白を書き留めた右京の文章を読むと...泣けます。

死を覚悟した恋人を前に、彼女の心は決まつたようです。『右京大夫集』にはその後、隆信の文へのそつけない返信が載つてゐるのみですから。そんな彼女に、届いたのは残酷にも、資盛の計報でした。

つひに、秋の初めつ方の、夢のうちの夢を聞きし心地、何にかはたとへん。

彼女は、その後の人生を資盛の追憶に生きるだけでした。ある意味で、彼女の人生を資盛の死とともに閉じてしまつたのでしよう。

恋人たちが、お互いを純粋に最愛の人として選び合つた時、死が二人を引き裂いてしまつた。いや、死が二人を引き裂いたからこそ、二人の愛は永遠のものとなつたのだと言えるのかもしれない。

もしあのまま平家の栄華が続けば、資盛もお気楽な恋愛遊戯を続け、右京は右京でなんだかんだ言いながら、いろんな男性から言い寄られ(おモチになつた方です)から、適当な恋人を見つけて一生を過ごしたんじゃないかと思つたりするのですよ。

どちらが幸せだったかはさておき、純愛つて逆説的なものよねと『右京大夫集』を読むたびしみじみ思う私です。

今回は、前回で語りつくせなかつた右京の恋について書きますね。

実は、右京にはもう一人、父親と同じぐらいの年齢の恋人がいたのです。藤原隆信という、歌人であり作家であり音楽家であり肖像画家であつた(※特に画業では、アンドレ・マルローに「東洋のモナリザ」と言わしめた肖像画を描いた人物なのです。『平重盛像』『源頼朝像』が有名。『源頼朝像』は教科書に載つてゐるあの絵ですが、あれは頼朝ではないと最近言われていますね)とにかくマルチな才能を持った人物でした。隆信は、資盛と右京の仲を知りつつ、若い彼女の心を翻弄します。そのため彼女は年下の恋人資盛と父親のような年の恋人隆信の間で揺れ動き、尽きせぬ悩みを抱くことになるのです。

しかし、

純愛のパラドックス

— 建礼門院右京大夫集 その2 —

Redécouverte
de la Littérature
Classique

エッセイ
第23回 王朝文学の再発見

松本みのぶ



松本みのぶ ろうけつ染め作品



短期間で出来るだけ足を伸ばすには、車移動が一番ということで、レンタカーの手配を日本で済ませ、朝10時に出発出来るようにタクシーでレンタカー会社まで行こうと予約したんだけど、待てど暮らせどタクシーが来ない。確認したら、何と、勝手にキャンセルされていた！びっくりよね。

営業所窓口での手続きも短時間で済むのかと思いきや、1時間近くかかった。というのも窓口の1つで中国人親子が何を交渉してるのだから1時間も粘ってたからだ。どんだん列が長くなって行く。私達の2人後ろにダウン症の男性が並んでいて、彼も車を借りるのだろうか？運転出来るのかな？などと思いつつ、彼がオモチャのラップを鳴らしたりするのを眺めていた。と、おもむろに窓口の女

イギリス道路事情



まりこの母娘珍道中記 英国縦断ドライブ編序



性に近づき、首からぶら下げた箱にコインを入れてもらったのだ。なるほど、これは彼の日課なのかもしれない。列に並んでいる人もコインを入れてあげていて、そこら辺が日本とちよつと違うかも。

イギリスの道路の交差点は日本と違って、直角に交差しておらず、ロータリーみたいになっていて右回りに走りながら1つ目の文岐路へ入ると左折、2つ目が直進、3つ目が右折ってという具合になっている。目的方向へ入れなかつたらそのまま周回して再トライすればいい。異国の見知らぬ道で迷子になると、カーナビをつけてもらっていて、「Turn to the second road」とか言ってくれるから、最初ドギマギしたけれど、1つ目、2つ目と数えて何とか無事にユホッ。都市部の繁華街には普通の交差点もあるけれど、この英国方式は信号もなく、ノンストップで曲がって行けるからものすごく合理的なのではないかしらね？ドライバーのマナーも良かった！

慣れない道を慣れない車で走るのは疲れるので、1時間程走っては、サービスエリアに寄ったのだけれど、英国滞在中、日本でのスタバ同様にお世話になったCOSTAとM&S（スーパー）が両方ある所に寄るのが定番になった。手軽にサラダやヨーグルトなどのランチや水を買えるから便利。他に子供用の遊技場や展望台もある所など、ちよつとずつ違っていて、なかなか飽きなくて良かった。

さて、予定より2時間遅れの出発となったこの日は、まずはコッツウォルズ地方の村巡り。スタート時点では少々曇っていたけれど、段々晴れてきて良かった！（次号へ）



6月はまだ花々が美しい季節～何の花でしょう？



道路の両サイドが防音壁などで覆われてないのが快適♪



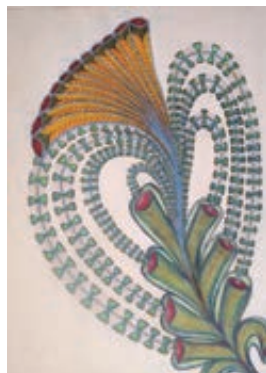
電車の車窓から見えるのは羊が多いけど、車からは牛が～



通りすがりの大きな建物も素敵だけれど、1枚の画像に収まらない！笑～



アンナ・ゼマーンコヴァー <深みからの上昇> 1965年
abcd コレクション



アンナ・ゼマーンコヴァー <無題> 1960年代後半
abcd コレクション



ルボシュ・ブルニー 肖像写真撮影 ©マリオ・デル・クルト



ルボシュ・ブルニー <無題> 2001年
abcd コレクション



ルボシュ・ブルニー <無題> 2008年
abcd コレクション

Anatomoia Metamorphosis

プルニー&ゼマーンコヴァー
チェコ、アール・ブリュットの巨匠 **解剖と変容**

2012年2月4日(土)~3月25日(日)

近年話題となっているアール・ブリュット/アウトサイダー・アートの、ヨーロッパでの最新の動向を紹介する展覧会です。

アール・ブリュットは、専門的な美術教育を受けていない作り手が、芸術文化や社会から距離を置きながら制作した作品です。本展では、世界有数のアール・ブリュット・コレクション<abcd>の所蔵品約100点と関連資料によって、生物の形態の解剖学的変容をテーマに、チェコ出身の画家アンナ・ゼマーンコヴァー(1908-1986)とルボシュ・ブルニー(1961-)を日本で初めて本格的に紹介します。精神の内奥を暴きだすような、迫りに満ちた表現をご堪能ください。

会場 ● 兵庫県立美術館企画展示室

開館時間 ● 午前10時~午後6時(金・土曜日は午後8時まで)

入場は閉館の30分前まで/休館日:毎週月曜日(ただし祝日の場合は翌火曜日に休館)

観覧料 ● 大人1,300(1,100)円/大学生900(700)円/高校生・65歳以上650(550)円
中学生以下無料

()内は前売料金および20名以上の団体料金、ただし高校生・65歳以上は前売なし
障害をお持ちの方とその介護の方(1名)は各当日料金の半額(証明書提示要)

兵庫県立美術館

神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1 TEL078-262-0901 <http://www.artm.pref.hyogo.jp>

◆阪神岩屋駅から南に徒歩8分◆JR 灘駅から南に徒歩10分◆阪急王子公園駅から南西に徒歩20分◆JR 三ノ宮駅から阪神バス13分◆神戸市バス16分◆地下駐車場80台収容・有料◆団体バスはバス待機所を要予約

主催 ● 兵庫県立美術館/読売新聞社/美術館連絡協議会

共同企画 ● abcd パルバラ・シャファージョヴァー/テレジェ・ゼマーンコヴァー

後援 ● チェコ共和国大使館/在京都フランス総領事館/在神戸チェコ共和国名誉領事館/兵庫県/兵庫県教育委員会/神戸市/神戸市教育委員会

協賛 ● ライオン/清水建設/大日本印刷/損保ジャパン

協力 ● AIRFRANCE / ホテルオークラ神戸

Hands Out Duex Vol.22



Staff

発行者★須澤まりこ
ウェブデザイナー★日上和也
編集／構成／制作★須澤まりこ
校正★AIKO
★GIN
制作／配信★Mallion

無断転載禁止

■記事広告掲載のお問い合わせは Mallion まで
E-mail:mallion55@mallion.biz

まりこのおすすめ ちょっと気になるライブ

ロイヤルホース・スペシャルライブ
アストロリコ四重奏

2012年1月24日(火)19:30~

- ◆会場 ロイヤルホース
http://www.royal-horse.jp
- ◆料金 S席 3,500円 / A席 2,500円
バーカウンター 1,000円



バンドネオニスト・門奈紀生さん率いるタンゴアンサンブル アストロリコが情熱的で、でもどこか物悲しいアルゼンチンタンゴをお届けします。ぜひお出掛けくださいね！

まりこのおすすめ ちょっと気になる古典芸能

第四回 神戸能

2012年3月20日(火・祝) 13:00開演

- ◆会場 神戸文化ホール・中ホール
- ◆料金 1階席 4,500円 / 2階席 3,500円
- ◆観世流能 感陽宮 藤井徳三 間狂言・前川宣池 他
大蔵流狂言 朝猿 善竹忠亮 岡村和彦 尾鍋智史
岡村春花 他
観世流能 土蜘蛛 上田大介 他

本誌 Vol.1 に登場の大蔵流狂言師・善竹忠亮さんが出演されます。能は難しいと思われる方も、狂言なら分かりやすいですよ。ぜひこの機会に古典芸能をお楽しみください！

一念発起



去年の暮れ、なんていうとすぐく前のことみたいに聞こえるけれど、3週間程前のこと。本誌王朝文学再発見シリーズ執筆者の松本みぶさんが経営するギャラリー&和かふえ「さくらみ」で(ちよつと宣伝)笑)「書き初め大会をしようと思ふの」というみぶさんの一声で、常連さん達が来年の抱負(もう、今年の抱負だけ)を思い思いに書いて壁に貼ってもらった。いの一筆を取ることになったのは、何故か、私。

お習字なんて小学校以来、何十年ぶりかのこと。子どもの頃はうまく筆を持てずに、まあひどい字しか書けなかったのだけれど、今回、思いの外綺麗に書けて

ほっとした。ペン字も大人になって少しずつマシな字を書けるようになったし、何でも長年やっていると下手は下手なりに上達するんだなあと、妙に納得。

現代生活の中で筆を持つ機会なんてないから、いつも困ってしまうのが、慶弔事の時などの芳名帳に名前を書く時だ。前の日なんかにはよるつと練習したりするけれど、効果がある筈もなく、情けない字を書く羽目に。さらさらと流麗に名前を書いている方が羨ましくてならないよね？実は、みぶさんはお習字も教えられるのだ。ということ、今年は一念発起、みんなでもみぶさんにお習字を習うことになった。頑張ってみよう！

★編集後記★

歳を重ねる程に、お正月も普段の日と大差なくなってきた、少々よろしくないかも？笑)でも、この1年が平和で穏やかであってほしいな！今年もよろしくお祈り致します！ (MARIKO)

年が明けた気がしない(笑)常に仕事のことを頭から離れない(T_T)ぎゃあ！締め切り！

(KAZUYA)
明けましておめでとうございます。今年はやや暦で世界滅亡が予言されているらしいですが、良い1年になりますように！ (AIKO)

25年ぶりに十日戎に行ってきました！すごい人でした！いろいろなことを吹き飛ばしてみんなに福が訪れますように！ (GIN)

